

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかがわることができる人を育てます。また多文化共生社会で活躍できる人を育てます。

(1) 多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と生徒支援により「4つの力」を育みます。

- ① 学び続ける力：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
- ② 他者と関わり生きていく力：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
- ③ 課題を乗り越える力：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
- ④ 自分の将来を考える力：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

(2) 地域に根差した学校として多文化共生社会において自己実現できる力を育みます。

2 中期的目標

1 わかる授業づくり ～「学び続ける力」を育む

(1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。

(2) 安心して授業が受けることができるよう授業環境を整え、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。

(3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。
※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 80%以上を維持 (R4：89.1% R5：84.8% R6：86.5%)

2 安全安心の学校づくりと生徒のエンパワーメント ～「他者と関わり生きていく力」「課題を乗り越える力」を育む

(4) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門職との連携を深め、きめ細かな生徒支援および教育相談体制を構築する。(生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。)

(5) 総合的な探究の時間等において、社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を活用して、必要なコミュニケーション能力や課題を一つひとつ解決する力を高める。

(6) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。

(7) ボランティア活動、地域連携などの取り組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。
※学校教育自己診断における生徒の教育相談満足度 75%以上 (R4：78.3% R5：69.0% R6：85.1%)

3 進路指導 ～「自分の将来を考える力」を育む

(8) 職場見学やインターンシップを通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。

(9) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取り組みをすすめる。
※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 85%以上を維持 (R4：89.1% R5：91.0% R6：91.9%)

4 多文化共生社会で活躍できる力を育む

(10) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜実施校4年めとして、日本語指導が必要な生徒に対する日本語運用能力の向上や母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を充実させる。

(11) 「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための指導内容の充実を図り多文化共生の学校づくりをすすめる。
※学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」 85%以上を維持 (R4：76.7% R5：91.1% R6：93.6%)

5 地域に根ざした信頼される学校づくり

(12) 家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめ、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。

(13) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取り組みをすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け「授業はわかりやすく、内容に満足できる」「積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」の肯定的回答はそれぞれ 95.4%、90.5%であり、前年度よりも上昇している。次年度、生徒が主体的に取り組む授業についてより追及していきたい。 <p><学校生活全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け「先生は生徒の意見を聞いてくれる」「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。」「いじめについて真剣に対応してくれる」の肯定的回答はいずれも90%を超えており、教員と生徒との関係が良好であることが窺える。 <p><学校運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の「よく当てはまる」は減少傾向 (R6：24.5% ⇒ R7：21.4%) であり、この点については、要因を分析し、速やかに改善を図っていく必要がある。 ・教育相談体制の肯定的回答(よく当てはまる)は生徒向け、教員向けいずれも前年度よりも減少(54.8%、31%)しており、この点については、要因を分析したうえで、次年度、教育相談体制を強化していく必要がある。 <p><全体を通して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の強みの一つは、教職員の同僚性の高さである。そのことが、生徒に対する温かさにつながり、生徒が安心した学校生活を送ることができている要因の一つであると考えられる。 ・その一方で、教員が不安を抱えながら業務にあたっていることも伺える。令和10年度からの日本語指導の拠点校化及び生野支援学校との併設に向けて、校長がリーダーシップを発揮し、道筋をきちんと示し、すべての教職員が同じ方向性を向き、子どもたちと向き合うことができるような職場環境を整えていかなければいけない。 	<p>第1回(8/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国ルーツ生徒を支援するうえで、大阪わかば高校の責務は非常に大きくなる。日本をリードするような学校になってほしい。 ・生野区は大阪市内でも多くの外国籍の方が住んでいる。中学校でも外国籍生徒が非常に増えている。中学校でも日本語指導ができる人を確保するのが非常に難しくなっている状況である。今後とも連携を深めていきたい。 ・令和10年度、生野支援学校が併設されるとのことだが、現在、わかばで開講している福祉の授業をより発展させることができるのではないかと、生野支援学校との連携を是非、考えてほしい。 <p>第2回(11/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国ルーツ生徒が社会で活躍できるような教育を今後も実践してほしい。 ・生野区は外国籍住民が24%である。保護者の方が日本語を話せないという家庭が増加しており、貧困につながるリスクが高まる。そのため、NPO等との連携が欠かせない。今後、大阪わかば高校との連携をさらに深めグローバルタウンを構築していきたい。 ・学校のみで、外国ルーツ生徒を支援することは限界がある。引き続き地域や地元企業との連携を深めてほしい。 <p>第3回(3/5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートについて、中学校においても、生徒と保護者で意識の差は見られる。まずは子ども中心に考えたら良いと考える。全体としては肯定的な回答が大半であり、うまく経営されていると思う。 ・生野区も外国ルーツの方が多く居住している。今後も、生野区やNPOとの連携を密に進めてほしい。遠慮なく地域資源を活用してほしい。 ・この地域に住んでおり、普段から生徒を見る機会があるが、生徒のマナーは年々向上しており好意的にみている。今後とも是非、頑張してほしい。 ・卒業式での生徒の送辞・答辞が大変素晴らしく、本当に感動した。先生方の生徒を想う気持ちがきちんと生徒に伝わっていることがよく分かった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 わかりやすい授業への取り組み「学び続ける力」の育成	<p>(1) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援</p> <p>(2) 安心して学べる学習環境の整備</p> <p>(3) 教員の授業力向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のユニバーサルデザインを意識した授業づくりや、ICT 機器を積極的に活用したわかりやすい授業づくりを推進する。 学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を発展させる。 授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に3回、授業見学月間を設定し、授業見学シートを活用する。 1人1台端末を活用した授業実践の研究をすすめる。 やさしい日本語での授業実践等の授業研究をすすめる。 	<p>(1) ※ [] 内の数値は R6/R5実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」80%以上を維持。[86.5%/84.8%] 「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」85%以上を維持。[95.1%/90.5%] 「教え方に工夫をしている先生が多い」85%以上を維持。[90%/86.6%] 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」85%以上を維持。[93.3%/89.0%] 「学習の評価について納得できる」85%以上を維持。[95%/90.3%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」80%以上をめざす。[81.2%/78.2%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学月間の授業見学回数を2回以上 活用の好事例の共有の研修の機会をもつ。[教員研修2回以上] 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」95.4% 生徒がより主体的に学ぶことのできる授業を追及していく必要がある。(○) 「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」93.9% (◎) 「教え方に工夫をしている先生が多い」93.6% (◎) 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」94.7% 教員と生徒との関係は良好である。(◎) 「学習の評価について納得できる」97.7% (◎) <p>「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」90.5% どの授業も落ち着いており、規律が保たれている。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学月間を2回設けたものの、見学している教員は決して多くない。次年度は月1回程度、授業の研究協議を行う予定である。(△) 教員研修は2回行った。(○)
2 安全安心の学校づくりと生徒のエンパワーメント 「生徒の個性を乗り越える力」の育成	<p>(1) SC、SSW等の専門職との連携による、多様な生徒への支援の充実と教育相談体制</p> <p>(2) 探究等の教育活動におけるSSTの活用</p> <p>(3) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得とSSTの活用</p> <p>(4) お互いの個性の尊重</p> <p>(5) 多様な生徒たちの活躍の場づくり・居場所づくり</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 生徒の状況をさまざまな角度から観察し、丁寧な指導と温かみのある声かけにより、問題事象の早期発見、早期対応を心がける。 教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CCと連携して生徒支援を行う。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間において計画的にSSTを実施する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SSTをすすめる。 総合的な探究の時間、LHR、SSTと群総合の内容がより効果的になるよう計画していく。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他を大切にすることを育むために、「3つのリスペクト(3R)」を大切にす取り組みを継続して行う。 人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 多文化共生やネットリテラシーに関してLHRや行事等で学ぶ機会や講演会を企画する。 <p>(5) 生徒会活動を通じリーダーを育成し、生徒が主役の学校行事の企画をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度 75%以上をめざす。[85.1%/69.0%] 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 80%以上を維持。[89.1%/84.4%] 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」80%以上を維持。[91.9%/84.2%] ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。情報共有が組織的に効果的に行われたかを検証する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間において教育産業と連携したプログラム、教科で作成した総合SSTと群総合が実施できたか。[総実施回数25回]。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」85%以上を維持。[92.3%/92.7%] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」85%以上を維持。[93.3%/90.0%] 学校教育自己診断において「多文化共生について学ぶ機会がある」の項目設定。85%以上を維持。[93.6%、91.9%] <p>(5) 学校行事への肯定的回答80%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「行事は楽しく行えるよう工夫されている」80%以上を維持。[92.3%/84.7%] 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談満足度 84.8% 校内体制については、改善の余地がある。(○) 入学満足度 89.8% 教員は生徒をリスペクトして接することができる。(◎) 「学校生活についての先生の指導は納得できる」96.2% (◎) <p>一定、専門人材と連携を図りながら生徒支援を行うことができているが、気になる生徒情報の収集方法については、改善の余地がある。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> SSTを年間で20回実施した。(○) <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」96.2% 近隣からの苦情がしばしばあり、地道に継続していく必要がある。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人権について学ぶ機会がある」98.1% 高い人権感覚を身に付けた教員が多く育成されている。(◎) 「多文化共生について学ぶ機会がある」95.7% 地域と連携しながら引き続き取り組みを進めたい。(◎) <ul style="list-style-type: none"> 「行事は楽しく行えるよう工夫されている」95.8% 引き続き、生徒の声を大切にしながら発展させていきたい。(◎)
3 進路指導 「自分を将来を生きる力」の育成	<p>(1) 将来を見すえた進路指導</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 ガイダンス、講演、リモート見学会等、生徒一人ひとりが具体的な進路を見据えることができる取り組みを計画する。 外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みをすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上を維持。[92.2%/88.7%] 生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」85%以上を維持。[91.9%/91.0%] 外部講師や地域人材などを活用した授業や講演会などの回数(5回以上)。 	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の進路や生き方について考える機会がある」91.3% (◎) 「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」93.9% (◎) 外部講師や地域人材などを活用した授業や講演会を6回実施した。(○) <p>中途退学に至ってしまう生徒が一定数おり、そういった生徒の進路保障をきちんとしていくことは今後の課題である。</p>

府立大阪わかば高等学校

<p>4 活躍できる力の育成</p>	<p>(1) 日本語指導が必要な生徒に対する支援体制の構築</p> <p>(2) 多文化共生の学校づくり</p>	<p>(1) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校として、日本語指導が必要な生徒に対する母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える</p> <p>(2) 学校経営推進費（R4）「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をととして多文化共生の学校づくりをすすめる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語指導が必要な生徒の入学満足度の肯定的回答85%を維持 [92.3%/98.1%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」80%以上を維持 [93.6%/91.9%] 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本語指導が必要な生徒の入学満足度」97.3% 生徒一人ひとりを支援する体制が構築されている。 (◎) 「多文化共生について学ぶ機会がある」 95.7% (◎) <p>日本語指導の拠点校化に向けた議論はさらに加速させていく必要がある。</p>
<p>5 地域に根ざした信頼される学校へ</p>	<p>(1) 地域との連携と受験生・中学校・地域向け広報の充実</p> <p>(2) ボランティア活動、地域連携などの取組</p> <p>(3) 学校における働き方改革の取組み</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP 等で入試関係や行事、学校生活について適宜発信する。 外部組織と連携し wakaba カフェ等の継続と居場所づくりをすすめる。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外美化活動はじめ地域におけるボランティア活動の企画を行う。 近隣支援学校、町会との交流の継続。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外労働時間数の把握し、業務の効率化をすすめ時間外労働時間の低減を図る。 働きやすい職場環境を維持し協働性の高い教職員集団づくりをすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」80%以上をめざす[85.3%/88.6%] wakabaカフェ等の開催回数 (前後期各4回程度) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動等の内容、回数がどうであったか。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外労働時間数を20時間未満に維持。[R6 : 13.5H、R5:12H] ストレスチェック集団分析結果で「総合健康リスク」を100以下に維持。[R6 : 75、R5 : 87] 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」87.8% (◎) 国事業を活用することで、wakaba カフェを17回開催した。単に開催するだけでなく、生徒支援につなげていく仕組みづくりが必要である。(○) 地域におけるボランティア活動を1回行った。また、支援学校との交流や町会との交流、NPOと連携した行事を行った。(○) 教職員の時間外労働時間数の平均は17.5Hであった。(○) 教職員のストレスチェックの「総合健康リスク」は75であった。(◎)